

中国のデジタル制御工作機械業界規模 (2018 年)

2018 年、中国のデジタル制御工作機械業界の総売上は 227.02 億元で、前年比 5.04% 増となった。

【中国のデジタル制御工作機械業界の売上】



出典：前瞻産業研究院

現在、中国のデジタル制御工作機械業界は三つのグループに分けられる。

- 第1グループは、多国籍企業及び外資系企業。主にハイエンド市場をリードしている。
主な企業：日本のヤマザキマザック、森精機、オークマ、アマダ、JTEKT、マキノ。ドイツのTRUMPF（トルンプ）、DEMAGE、アメリカのCox-Cole、中国の瀋陽機床など。
- 第2グループは、核心的技術を有し、規模とブランド知名度もある中国の国営企業及び私営企業。
ハイエンド市場で高い競争力を有する。
主な企業：中国秦川機床、中航高科、浙江日発、岷威機床、弘岷数控、華明裝備、連城数控、華中数控、合鍛智能など。
- 第3グループは、多数に存在するその他のローエンド企業。

Copyright (C) CAST Consulting Co., Ltd. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

本資料に関する著作権は弊社又は弊社に所属する作成者に属するものであり、本資料の無断引用、無断変更、転写又は複写は固くお断りいたします。